

さぽうと21

受講者募集

難民等への日本語教育を学び・考える

60時間 日本語教師養成研修

文化庁 2020 年度 日本語教育人材養成・研修カリキュラム等開発事業

■ **対象**：難民等への日本語教育を学びたい日本語教師
全講座参加可能な方優先

■ **日程**：2021年 2月6日(土) ～ 2021年 3月14日(日)

■ **時間**：おもに 9:30～15:00 ※時間外受講応相談

※全60単位相当(45分×60コマ)の講座です。

※研修は原則、日曜日に行われますが、土曜日実施の日もあります。詳しくは裏面をご覧ください。

■ **会場**：ZOOM 利用によるオンライン

■ **申込方法**：

当団体 ホームページの申込メールフォームよりお申込み下さい。
先着順にて受付を終了します。(12名)



◆「受講者」の皆様へのお願い◆

本研修は、文化庁委託事業として「難民等に対する日本語教師<初任>研修」の研修カリキュラム開発のために実施しております。ご参加にあたりましては、以下、ご理解・ご了承の上、お申し込みください。

1 より良い研修をつくっていくため、研修の様子を録音・録画する場合があります。

2 アンケートや自己評価シート等へのご協力ください。

※ アンケート結果等は、各講座の効果を検証したり、より良い研修内容を検討したりするために利用させていただきます。個人が特定されない形で事業報告や発表に使わせていただくことがあります。

なお、本研修の対象者は、「日本語教師」に限定させていただいております。



主催：社会福祉法人 さぽうと21

〒141-0021 東京都品川区上大崎 2-12-2 ミズホビル 6階

TEL: 03-5449-1331 FAX: 03-5449-1332

E-mail: kensyu@support21.or.jp

社会福祉法人さぼうと21は、1979年に「インドシナ難民を助ける会」として事業を開始して以来、一貫して、難民等、何かしらの特別な事情により日本に留まることとなった方々への日本語教育に携わってきました。彼らの日本での暮らしは「就労先」「学校」「自治体等の地域コミュニティ」などにより支えられますが、そうした日々の暮らしを支えるため、また、彼らがより自分らしく生きていくため、日本語の習得は欠かすことのできないとても大切な要素です。

長年、現場で難民等の日本定住の支援に関わってきた者たちが集まり、「難民等への日本語教育の力とはなんぞや？」を考え、議論を重ねながら、日本語教師（初任）対象の研修をデザインしてみました。ご興味のある日本語教師の方は、ぜひご参加ください。皆様のご参加により、より良い、有意義な研修をつくっていきたくて願っています。

※本研修は、受講者の方々からも様々なご意見をいただき、より良い研修をつくっていくためのお手伝いをお願いすることから、受講者の皆様には「協力者」としてのご参加をお願いします。私達もまだ「開発途上の段階」にありますことから、本研修の受講料は無料とさせていただきます。皆様のご協力を切にお願い申し上げます。

2019 年度受講者の声

日本で日本語教師として働く人にとって、とても役に立つ講座です。生活者としての外国人の中には、難民等の背景を持った人がいるかもしれないと想像できるようになります。難民等について深く知ることができるだけだけでなく、日本語教師としても心理学的側面やソーシャルワークの面で、新たな視点や心構えなどが持てるようになります。講義と演習がバランス良く組まれた講座なので、知識が一段階深まり、他の日本語教師などの参加者との協働を通して、技術を磨くこともできます。

私は現在日本語学校で教えているので、直接難民等の背景を持った学習者と出会うことはありませんが、この講座で学んだことが、学習者や外国人と接する時の態度や心構えとして、自分の日本語教師としての目に見えない土台の部分に身についたように思います。受講者一人ひとり刺さる内容は違うと思いますが、様々な講師・内容やユニークな演習内容から、貴重で実りある学びが得られるはずです。(E.M)



研修を受けた当初は日本語教師としてのキャリアがほとんどなかったので、研修の内容についていけるか不安でしたが、幅広い参加者が参加しており、安心して最後まで参加することができました。

研修では、難民等の方々をめぐる行われる日本語教育の内容や方法のみならず、難民等の背景、支援の現状、心理的な影響など多角的に学ぶことができ、それぞれの回に興味深く参加しました。また、行政や様々な支援団体など、多様な立場の方々のお話を聞いたので、(時には意見の相違も垣間見え)立体的に理解を深めることができたと思います。

研修後もさぼうと21の活動にときどき関わらせていただいております。今は日本語学校で日本語教師として働くかわら、さぼうと21が行っている学習支援室の一つでコーディネーターとして活動しています。研修で学んだことを頭に置きつつ、様々な方と関わりながら活動していければと思います。(O.W)

以前から時々さぼうと21で学習支援ボランティアに参加していましたが「難民の学習者と難民以外の学習者の違いは何？」と友人や同僚、家族に聞かれても答えられなかったことが、この研修を受講することにした動機です。

研修では、難民に対する基礎知識から、取り巻く環境、法律、心理等、専門的知識を学びました。また、演習では、たくさんの事例をもとに、実際の場面で日本語教師としてどのように考えて対応していけばよいのかを受講者の皆さんと議論を重ねながら、共に学びました。

長い期間一緒に勉強した受講生の方々も個性的で、お互いのバックグラウンドを生かした意見交換を重ねていくうちに、発想力、調整力、洞察力などさまざまな面でプラスになりました。

研修終了後、研修で講師をつとめてくださった方が所属する団体主催の日本語教室に携わる機会をいただき、毎回ドキドキワクワク奮闘しております。今まで続けてきた日本語学校の仕事に加え、広い視野を持ち、「小さな気づき」と「築き」を大切にできる日本語教師として、今後も歩んで行けたらと思っています。(J.N)



講義内容・日程

※講義内容、講師につきましては、変更の可能性があります。

日にち	回数	午前① 9:30-11:00 ※2単位	午前② 11:10-12:40 ※2単位	午後 13:30-15:00 ※2単位
		講義・コーディネーター	演習・コーディネーター	
2/6 (土)	1	【講義 A】「難民」とは？(概論) 武蔵大学社会学部准教授 人見泰弘	【講義 C】 難民等に対する日本語教育 (概要) (社福)さぼうと21 矢崎理恵	【演習1】 難民等に対する日本語教育に必要な知識・技能・態度を身につけていくには
2/7 (日)	2	【講義 A】 世界における難民等の現状 国連難民高等弁務官事務所 UNHCR 駐日事務所副代表 川内敏月	【講義 C】 中国帰国者に対する日本語教育 中国帰国者支援・交流センター 小川珠子	【演習2】 積極的傾聴と対話
2/11 (木祝)	3	【講義 A】 日本の難民等受入れの経緯と 基本的な受入れ方針・体制等② (公財)アジア福祉教育財団 難民事業本部(RHQ) 本部長 礪 正人	【講義 C】 難民等に対する日本語教育 (公的な支援を中心に) (公社)国際日本語普及協会(AJALT) 理事 小瀧雅子	【演習3】 経験や対話を通じた学びと教師の成長 ——ある日本語教師の成長・変容過程
2/14 (日)	4	【講義 B】 難民等の異文化受容・適応 慶應義塾大学特任講師 伴野崇生	【講義 C】 難民等に対する日本語教育 (公的な支援以外を中心に) (社福)さぼうと21 矢崎理恵	【演習4】 異文化調整能力・課題の共有・ 評価とフィードバック
2/20 (土)	5	【講義 A】 日本における難民等の現状 認定 NPO 法人難民支援協会 鶴木由美子	【講義 B】 難民等の多様性 認定 NPO 法人難民支援協会 鶴木由美子	(2/20 は午後の演習はありません)
2/21 (日)	6	【講義 B】 難民等の多様性 日本ムスリム協会 理事 前野(アハマド)直樹	【講義 B】 難民への理解を深める -言語学習者としての側面から- 広島大学大学院人間社会科学研究科 准教授 櫻井千穂	【演習5】 対象別指導法と学習者の個別性
2/23 (火祝)	7	【講義 B】 難民への理解を深める-臨床心理学の視点から- 大正大学人間学部人間学科准教授 鶴川 晃		(2/23 は午後の演習はありません)
2/28 (日)	8	【講義 D】 難民等の社会参加 (社福)日本国際社会事業団 常務理事 石川美絵子		【演習6】 難民を対象とした日本語教育実践者への インタビュー
3/7 (日)	9	【演習7】④ 教師の成長・難民等に対する日本語教育に必要な知識・技能・態度の記述 から学ぶ		【演習8】 オンライン日本語学習支援・学習支援 ツール
3/14 (日)	10	【講義 D】 難民等のライフステージに合わせたキャリアプランと日本語学習④ 慶應義塾大学特任講師 伴野崇生		【演習9】13:30-15:00、15:15-16:45 ・私にとって「難民に対する日本語教育」と は ・実践者として学び、成長し続けるために
★		【演習特1】 さぼうと21学習支援室見学 ※2/13(土)、2/27(土)、3/6(土)より選択(見学時間は90分程度) 担当:矢崎理恵 【演習特2】 難民当事者との対話 ※日時の設定は個別に設定(対話時間は1時間程度) 担当:田中美穂子		

・本研修では、日本に暮らす多様な難民への支援の現場に直接かかわる方々に講義の多くを依頼し、多視点から難民を理解し、対人援助としての日本語教育の姿勢を養うことを重視しています。

・難民当事者や、難民への日本語教育を行う日本語教師の生の声に接し、対話を進めることができるよう、講義内容を決定しました。

・演習では、難民の多様かつ複雑な背景から生まれるニーズについて、複数の実例をもとに作成したケースを通じて理解していきます。その際、ビジネススクール等で実践されているケースメソッドを援用します。